

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902096		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム まごころの贈り物 2階ユニット		
所在地	旭川市末広東1条3丁目2-27 ケアサポート末広 2・3階		
自己評価作成日	令和6年1月23日	評価結果市町村受理日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0192902096-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と日々、コミュニケーションを図り、馴染みの関係性を構築、毎日が笑顔で暮らせるよう支援しています。個人の意見を尊重し、その人その人が望む生活を送れるよう努めています。毎月、行事も行い、普段はなかなかできないゲームや外出等で楽しんでいただけるよう努めています。食事は、事業所に食材が届き、職員が調理。入居者様にも、できることを手伝っていただいています。夏場は、ベランダのプランターで育てた野菜も付け加え、新鮮な野菜は入居者様に好評です。3階からは、大雪山も一望でき、四季を感じることができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市郊外の幹線道路近くの住宅地に位置する2ユニットのグループホームである。3階建で、2～3階がグループホームとなっている。バス停が近く周辺には商店や医療機関があり、利便性が高い。共用空間は広く、利用者が主に過ごす食堂の他に居間スペースがあり、バルコニーや和室コーナーもある。比較的広いトイレや浴室、エレベーターなどの設備が充実している。法人が道内で多数のグループホームを運営し、各種の書式や研修、食事の提供、運営管理等の支援体制が整っている。事業所独自の理念があり職員の理念の理解度も高い。家族への情報提供は、年2回の「まごころ便り」の他に毎月の「利用者のご様子」で詳細を伝えている。ケアマネジメントの面では、センター方式のアセスメントシートを定期的に更新し、特にB-3シートを使い趣味や嗜好の情報を詳しく把握している。介護計画を更新する際のモニタリング表や担当者会議の記録が分かりやすく整理されている。医療支援の面では、各利用者がかかりつけ医を継続的に受診できるようにし、受診記録も整備している。入浴の面では、利用者の希望するタイミングや回数で入ることができ、入浴剤の使用やこまめなお湯の交換により気持ちよく入浴できている。地域交流や外出は、感染症の収束状況を見ながら以前のように活発化したいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に事業所理念、廊下にフロア理念を掲示し、共有している。	「入居者様が地域の中で、その人らしい生活ができる」という事業所独自の理念があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を事務所や共用部分に掲げ、ミーティングや研修の際に理念を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事はコロナウイルスによって行われていませんが廃品回収に参加し関係強化に努めています。	感染症の流行により、現在は住民と挨拶を交わしたり、廃品回収に協力する程度である。以前は傾聴ボランティアの方が来訪したり、近所のお茶会に利用者が参加していた。感染症が落ち着いたら交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の交流の場で発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてホームの現状をお伝えし、意見交換を行っています。書面開催の時も、意見や要望を郵送していただいています。	2か月ごとの開催で、最近は文書による開催が多いが、今年度は2回、メンバーが集まって会議を行った。内容は運営報告が中心で、計画的なテーマを設けての話し合いまでは行っていない。議事録を全家族に送付している。	毎回のテーマを計画的に設定し、簡単な資料も用意して話し合いを行うことを期待したい。参加できない家族にもテーマに関する資料を送付し、意見を聞いて会議に反映することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、保護課や指導監査課の職員の方に相談をさせてもらっています。市からのアンケート等にも回答しています。	運営推進会議で地域包括支援センターから情報提供を受けている。不明な点があれば市役所に電話等で相談している。感染症に関する消毒用備品の購入にあたって市の助成を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会と年2回の研修で身体拘束に当たることがないか確認し、ケアの質の向上に努めています。玄関の施錠は防犯上の理由により行っています。	身体拘束を行っておらず、3か月ごとに不適切ケア防止委員会を開催し、身体拘束や不適切ケアの有無などを確認している。年2回、勉強会を行い、禁止事項を確認している。各フロアからエレベーターホールへのドアを施錠しているが、利用者の外出意向を察知した場合は同行するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修と3か月に1回の委員会で虐待について学び、虐待や不適切ケアに当たるケアがないか確認を行っています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ステップアップ通信等で事業について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に不明点が無くなるまで十分に説明し、理解をしていただいた上で契約を行っています。改定時と同様にしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見書を書いてもらい、議事録と共に1階エレベーターホールにファイルに綴じ、誰でも閲覧できるようにしてあります。苦情に関しては、入居契約時に相談窓口を案内しています。	家族からの意見や要望を連絡ノートと支援相談経過記録に記載し共有している。家族意見を過去に遡って確認しやすいよう記録方法を見直す意向である。年2回の「まごころ便り」と毎月の個別の手紙を家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや面談を通じて意見交換を行っています。	月1回ミーティングを行い、職員が活発に意見交換している。管理者は年1回、職員と個別面談を行っている。職員は、行事を交代で担当したり、お便り作成、物品管理、室内装飾などを分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働けるよう、正社員Ⅰ、Ⅱへの昇格制度を設けています。また、個々の希望する労働条件に合わせたり、休憩室の環境整備等も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は外部の研修に参加、職員は事業所内で定期的に勉強会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、情報交換の機会を持つことができています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に言動や表情観察を行いながら、不安や要望等の訴えを聞き取り、安心できるような対応策を提案し、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にホーム見学していただき、ホーム内の取り組み、受診や職員体制、料金の詳細説明を分かり易く説明するよう努めています。 要望にもできるだけ対応するよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の意向を踏まえ、訪問歯科や訪問理美容、居宅療養管理指導等のサービス利用に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを確認させていただき、できることを尊重し、職員間で情報を共有しご本人らしく生活できるように支援させていただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の「まごころ便り」と、毎月、写真付きの「ご様子」を郵送し、日々の様子をお伝えしています。また、面会にも来ていただいた際にもケア方針の確認等行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人との面会を行っています。手紙が来た時は、ご本人にお渡しし、読めない時は、職員が読んでからお渡ししています。	2名ほどの利用者に同級生や宗教関係の知人が来訪している。知人から手紙が届いた場合は読み聞かせ、返事作成の希望があれば手伝う用意がある。家族と一緒に墓参りや美容院、住んでいた自宅に行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って、他者との交流を支援しています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談があればいつでも連絡してください、と伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞き取りが困難な時は、日々の言動から思いをくみ取り、ケア会議で共有し、統一したケアの提供に努めています。	半分ほどの利用者は思いを言葉で表現でき、難しい方の場合も表情や過去の経験から把握している。センター方式のアセスメントシートで生活歴や趣味・嗜好の情報を十分に把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当ケアマネージャーやソーシャルワーカーから情報収集をしたり、ご家族様にセンター方式(B-1、B-2、B-3)の記入をお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や業務日誌に記載している。半年に1回、センター方式(B-3、D-1、D-2)の更新も行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにモニタリングを行い、ケアカンファレンスでケアプラン原案を提示し、計画の見直しを行っています。その際、ご家族の要望や居宅管理指導を受けている医師からの意見も取り入れています。	介護計画を6か月ごとに見直ししている。3か月ごとにモニタリングを行い、状態の変化を確認している。見直し時の会議録も整備されている。タブレット端末で日々の記録を作成し、介護目標に関することは目標番号を添えて記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に変化があれば記録に残し、出勤時に記録の確認を行い、情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	図書館で本を借りて来たり、ベランダで野菜やお花を育てたり、その時々々の要望に、できる限り対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店に買い物に出掛け、楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族様の意向に沿った病院を受診。受診の際は必ず同行し、日々の様子をお伝えしています。	利用者がそれぞれのかかりつけ医に通院しており、家族または事業所が送迎している。居宅療養管理指導を受けている利用者もいる。受診内容を個人ごとの「受診記録」に記載し、共有している。	

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職員を配置していない、医療連携体制加算は算定していない。利用者の情報は受診時に報告・相談している。場合によっては、病院に電話し、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、施設での普段の生活状況について情報提供を行っています。入院中も電話で連絡を取りながら退院支援を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・看取りに関する意向を確認している。看取りについては、意向を確認しつつ、事業所でできることと、できないことを説明している。	利用開始時に、重度化した場合の対応に係る指針を説明し同意を得ている。現在は事業所での看取りが難しく、その旨を説明しているが、体制を整えば看取り支援を再開する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成していますので、急変時にはマニュアルを参照し初期対応ができるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、水害想定訓練、BCPの研修・訓練を定期的に実施し、災害に備えている。地域の方にも運営推進会議の中で、協力を依頼している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の立ち会いを得ている。感染症が落ち着いたら住民の参加も得る予定である。一方、職員の救急救命訓練や、地震対応に関する話し合いは行っていない。	各職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう取り組みを期待したい。また、地震対応マニュアルや市の防災ガイドブックなどを参考に、地震時の初期対応や事業所内の危険箇所、ケア場面別の対応などを話し合うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には、さん付けで呼んでいるが、ちゃん付けで呼んで欲しいと希望があった時はケアプランに記載し、ちゃん付けで呼んでいる。申し送りは居室番号で行っている。	気になる言葉かけや対応があれば、管理者がその都度指導している。個人記録は事務所に保管し、日々の記録はタブレット端末で記録している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意向を聞きながら、支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な入浴希望にもできる限り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様からの化粧品の購入依頼に対応したり、意思決定ができない方には、毎日、同じ服にならないよう努めています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が進まない方には、好みの物を提供し、食事が摂れるよう支援しています。もやしのひげとりも利用者様と一緒にしています。	法人の献立を基本に、利用者の好みに応じて味付けを変えたり、鍋料理や餃子作りなども楽しんでいる。利用者は下膳や盛り付け、食拭きなどを手伝っている。誕生日は手作りケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成していますが、一人ひとりの状態に応じて量を調整しています。必要に応じて介助も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて口腔ケアを行っています。夜間は、洗浄剤で義歯の洗浄を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付け、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っています。	ほとんどの利用者が誘導や介助が必要になっているが、各人のパターンを把握して、日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は排泄用品やポータブルトイレを利用する方もいる。適切な声かけで排泄面が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便が出ていない時は、乳製品を多めにとるなどの工夫をしています。体操時には下腹部のマッサージを行い自然な排便が出るよう努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り、入居者様の意向に沿えるように対応しています。	毎日入浴が可能で、夕方や夜間帯以外で一人週2～3回入浴している。お湯を毎回交換し、同性介助やシャワー浴などの希望に沿って楽しく入浴できるように支援している。入浴を拒む場合は、声かけを工夫したり時間帯を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や居室の温度管理を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルに綴じて、閲覧できるようにしています。薬の変更があった時には、申し送りノートに注意事項等を記載し、服用後の変化を見逃さないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時にいただいた情報を基に支援を行っています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場は、気分転換に散歩に出かけられるよう支援しています。家族と外出される方もいらっしゃいます。	利用者の状況を見ながら周辺を散歩して気分転換したり、通院や家族との外出で外気に触れている。花咲スポーツ公園で花見を楽しんだり、近隣の商店に買い物に出かけている。感染症の収束状況を見ながら、外出行事を増やしていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の必要な買い物は、会社立替で職員が購入したり、ご家族が購入して来てくれたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はホームの電話を使用してもらっています。Zoom!によるオンライン面会も行っています。友人から手紙や年賀状が届く方もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせ飾り付けを行っています。夏は、ベランダで野菜やお花を育てています。また、温度や湿度の管理も行っています。	居間と食堂が独立した明るく開放感のある造りで、廊下も広く車椅子の方もスムーズに移動することができます。玄関やエレベーターホール、食堂などに花の飾りや観葉植物なども置かれており家庭的な温もりが感じられる。加湿器を利用して湿度調整にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状況に合わせて、テーブルや椅子、ソファの位置を変更しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた環境を作れるように、今まで使用していた物をできるだけ持ってきてもらっています。	クローゼットが備え付けられている居室に、使い慣れたタンスやテレビなどを持ち込んだり、人形や家族の写真を飾り居心地よく過ごせるように工夫している。CDラジカセを持って来て好きな歌を聞いている方もおり、その人らしい室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置。手すりのない所には、手すり替わりになる物を置き、できる限り、自分の力を使えるようにしています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902096		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム まごころの贈り物 3階ユニット		
所在地	旭川市末広東1条3丁目2-27 ケアサポート末広 2・3階		
自己評価作成日	令和6年1月23日	評価結果市町村受理日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0192902096-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と日々、コミュニケーションを図り、馴染みの関係性を構築、毎日が笑顔で暮らせるよう支援しています。個人の意見を尊重し、その人その人が望む生活を送れるよう努めています。毎月、行事も行い、普段はなかなかできないゲームや外出等で楽しんでいただけるよう努めています。食事は、事業所に食材が届き、職員が調理。入居者様にも、できることを手伝っていただいています。夏場は、ベランダのプランターで育てた野菜も付け加え、新鮮な野菜は入居者様に好評です。3階からは、大雪山も一望でき、四季を感じることができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えていく (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂と廊下の見えやすい位置に、それぞれ、ホーム理念とフロア理念を掲示し、日頃から理念を共有できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事はコロナウイルスによって行われていませんが廃品回収に参加し関係強化に努めています。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の交流の場で発信しています。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてホームの現状をお伝えし、意見交換を行っています。書面開催の時も、意見や要望を郵送していただいています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、保護課や指導監査課の職員の方に相談をさせてもらっています。市からのアンケート等にも回答しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会と年2回の研修で身体拘束に当たることがないか確認し、ケアの質の向上に努めています。玄関の施錠は防犯上の理由により行っています。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年2回の研修と3か月に1回の委員会で虐待について学び、虐待や不適切ケアに当たるケアがないか確認を行っています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ステップアップ通信等で事業について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に不明点が無くなるまで十分に説明し、理解をしていただいた上で契約を行っています。改定時と同様にしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見書を書いてもらい、議事録と共に1階エレベーターホールにファイルに綴じ、誰でも閲覧できるようにしてあります。苦情に関しては、入居契約時に相談窓口を案内しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや面談を通じて意見交換を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働けるよう、正社員Ⅰ、Ⅱへの昇格制度を設けています。また、個々の希望する労働条件に合わせたり、休憩室の環境整備等も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は外部の研修に参加、職員は事業所内で定期的に勉強会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、情報交換の機会を持つことができます。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に言動や表情観察を行いながら、不安や要望等の訴えを聞き取り、安心できるような対応策を提案し、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にホーム見学していただき、ホーム内の取り組み、受診や職員体制、料金の詳細説明を分かり易く説明するよう努めています。 要望にもできるだけ対応するよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の意向を踏まえ、訪問歯科や訪問理美容、居宅療養管理指導等のサービス利用に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを確認させていただき、できることを尊重し、職員間で情報を共有しご本人らしく生活できるように支援させていただきます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の「まごころ便り」と、毎月、写真付きの「ご様子」を郵送し、日々の様子をお伝えしています。また、面会にも来ていただいた際にもケア方針の確認等行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスが5類に移行後、面会や外出制限をせず、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が各居室に行かれ、交流できるよう支援しています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談があればいつでも連絡してください、と伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞き取りが困難な時は、日々の言動から思いをくみ取り、ケア会議で共有し、統一したケアの提供に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当ケアマネージャーやソーシャルワーカーから情報収集をしたり、ご家族様にセンター方式(B-1、B-2、B-3)の記入をお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や業務日誌に記載している。半年に1回、センター方式(B-3、D-1、D-2)の更新も行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにモニタリングを行い、ケアカンファレンスでケアプラン原案を提示し、計画の見直しを行っています。その際、ご家族の要望や居宅管理指導を受けている医師からの意見も取り入れています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に変化があれば記録に残し、出勤時に記録の確認を行い、情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族から要望があれば、柔軟に対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりのADLに合わせながら、安全に暮らせるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様の長年見ていただいている主治医との連携を行い、小さな変化でもお伝えできるようにしています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職員を配置していない、医療連携体制加算は算定していない。利用者の情報は受診時に報告・相談している。場合によっては、病院に電話し、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、施設での普段の生活状況について情報提供を行っています。入院中も電話で連絡を取りながら退院支援を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・看取りに関する意向を確認している。看取りについては、意向を確認しつつ、事業所でできることと、できないことを説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成していますので、急変時にはマニュアルを参照し初期対応ができるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、水害想定訓練、BCPの研修・訓練を定期的実施し、災害に備えている。地域の方にも運営推進会議の中で、協力を依頼している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を呼ぶときは、苗字にさん付けで呼んでいる。職員同士の申し送り時は、プライバシーに配慮し、居室番号で申し送りをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意向を汲み取れるよう、ケア実施時の気付きを職員間で共有しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが尊厳を持って生活できるようにその日の気分体調に合わせたケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思の決定ができる方にはその日の気分にあう服装を選んでいただいたり、2か月1回の訪問理美容を利用し整髪に努めています。口紅を塗ってあげている方もいらっしゃいます。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能に合わせ、キザミやミキサー食等を提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取慮に関しては各個人の記録をつけて、不足がないように援助しています。栄養バランスに関しては、管理栄養士が献立を製作し、1日を通じて過不足なく計算してくれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、義歯の洗浄を行っています。自力にて行えない方に関しては、介護員のほうで援助を行い口腔内の清潔を保持できるようにケアしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの記録を付け、排泄パターンの把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールを行うために、主治医と連携を密にしています。体操時には下腹部のマッサージを行い自然な排便が出るようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を提供できる時間は決まっていますが、入居者様の意向に沿えるように入浴支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬季は、加湿器を使用し加湿に心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様が飲まれている薬を各個人ファイルに挟みすぐ確認できるように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様によっては、編み物やオセロなど行い毎日楽しく生活されています。ビールを飲まれている方もいらっしゃいます。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って、気分転換に、近所を散歩できるよう支援しています。ご家族と外泊された方もいらっしゃいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を持ち込んでいる方はいませんので、ホーム側にて金銭の立て替えを行い入居者様が買い物できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては各居室にはありませんので、事務所の電話を使用してもらっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、季節行事の写真を掲示し、廊下を歩いた時に、行事を思い出されたり、自分を見つけて喜んだりされています。温度や湿度管理にも気を配っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状況に合わせて、テーブルや椅子、ソファの位置を変更しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が生活していた時と同じ環境を作れるように、自宅で生活に使用していたものを持ってきてもらっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレが分かるよう、プレートで表示しています。必要な場所に手すりも付け、転倒防止に努めています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

作成日：令和 6年 3月 12日

市町村受理日：令和 6年 3月 13日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議の会議内容が、運営報告が中心で、 テーマを設けて話し合うまで至っていない。	運営推進会議では、運営報告の他にテーマを設けて 話し合いを行い、サービスの向上に活かしていく。	毎回、テーマに沿った資料を作成する。参加できない 家族にも送付し、意見を求め、会議に反映させる。	4か月
2	35	災害対策として、救急救命訓練や地震対応に関する 話し合いが行えていない。	地震時の初期対応や救急救命訓練を行い、震災時の 対応を身に付ける。	地震時の対応や施設内の危険箇所についての話し合 いを行う。合わせて、救急救命訓練も実施する。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。